特派員レポート⑱

青少年の主張

11月8日、青少年の主張と題した意見発表会を見に、スカイホールへ行ってきました。多くの応募者の中から、小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部の13名の優秀賞の意見発表があり、次いで、瑞穂町の姉妹都市モーガンヒル市での中学生6名の活動報告。小・中学生・高校生20名の小笠原探検活動報告と、生き生きした若い人たちの姿を見て、これまでには無かったような、気持ちが引き締まる感じがしました。

壇上では堂々と発表され、原稿も見ずに、間の取り方も適切、言葉を大切に発音も明瞭、説得力のある話し方をし、入退場の所作も落ち着き、皆さん発表の基準はクリアされているように私には感じました。

皆さん考えていることは、大人が襟を正さなければ…と思わされる、人の命、相手を思いやる気持ち、ごみ問題まで、こんなことまで考えていたかと感心しました。そして、頼もしく思いました。

将来を担う若い人々が外国へ行き、見聞を広め、今後の活動方針などを見極めるには大人たちの応援も絶対必要でしょう。何色にも染まる若い人たち、やると思えば何でも可能性のある若い人たち。大人たちも若い人と共に生き、人を、自然を、そして地球を愛せるよう今後を一緒に歩みましょう。頑張れ若人！心から応援します。

久保 好子

特派員レポート⑲

大人も子どもいい笑顔

11月2日、秋の最高の天気の中、福祉ふれあいまつりが狭山谷公園で行われ、多くの参加者で大変なにぎわいでした。生バンドやフランダンス等の催しで広場がお祭りムードとなり、見ている方々も大満足の一日でした。

食べ物コーナーでは、焼きそば、綿菓子、豚汁、フライドポテト等、数々の出店があり、長い列ができるほど大繁盛で、ほかでは考えられないほどの値段に子どもも大喜びでした。親も子もお腹いっぱいになったのではないでしょうか。

午後1時からは福祉バザーが福祉会館であり、こちらも早い時間から待っている方々が列をつくり、帰りには両手に持ちきれないほどの買い物をしていました。ボランティアの方たちの心配りのお手伝いで大助かりのようでした。このような企画がありますと私たち主婦も大助かりです。

関係者の方々、大変な一日でしたがこれからもぜひ続けてほしいと思います。

難波 睦子

特派員レポート⑳

農ウオークってなに？

10月26日、農業委員会主催による「農ウオーク」が行われた。これは、瑞穂町の農業について、町民により理解を深めてもらおうとするもので、総勢30名が牧場や農家など4カ所をウオーキングで見学した。

最初に農業委員会の久保田会長のあいさつがあり、瑞穂町の農家の数や農地面積について近隣の福生市、羽村市に対比して説明があり、瑞穂町がいかに農業が盛んな地域かということがよく理解できた。

そして見学が始まり、最初に訪れたのが清水牧場である。驚いたことに、110頭の乳牛をたった3人で飼育しているとのこと。その秘密は徹底した機械化で、特に24時間稼動の自動搾乳ロボットでは人手を全く使わず、乳しぼりが行われていた。

次に、西村園では、お茶の生産について詳しい話を聞くことができた。お茶ようかんがとてもおいしかった。

次に、野菜農家である近藤さんを訪問し、2000本ほどのキュウリが栽培されるハウスで、初冬のキュウリの収穫を楽しんだ。

最後の見学となる中垣園芸では、シクラメンを栽培しており、ハウスの中で美しいシクラメンを見ながら、その栽培方法やシクラメン街道の歴史についての話を聞いた。

自然環境の中での程よい運動と驚きの連続で、楽しく、かつ、意義深い半日を過ごすことができた。

川口 尊

情報倶楽部　町内で活動している団体・サークルの情報提供　会員募集

スイミング

★初心者歓迎、無料体験あります。お気軽にご参加ください。
団体名　ワイワイ　フライデイ
日　時　毎週金曜日（月4回）正午～午後2時
場　所　羽村市スイミングセンター
対　象　大人
費　用　年会費　1,000円
月会費　3,000円
年間スポーツ保険　1,500円
持ち物　水着、水泳帽子、ゴーグル
問合せ　若杉　℡557－6552

マンドリンとギター合奏

★見学者いつでも歓迎です。
団体名　マンドリーノ☆ＯＭＥ
日　時
▶第1木曜日…午後7時～9時
▶第2・第3土曜日…午前9時～正午
場　所　主に青梅市の施設
対　象　マンドリンとギター合奏に興味のある方
費　用　入会金　2,000円
月会費　3,000円
持ち物　マンドリンかギター
問合せ　町田　℡557－0304

みんなのページ

ひゅーまんたうん

〒190-1292
瑞穂町役場
秘書広報課
広報公聴係

お便り待ってまーす！

住所・氏名・電話番号を明記してください。なお、ペンネームや匿名希望の方はご記入ください。

秘書広報課 ℡557―7497

特派員レポート㉑

ハロウィーンナイト2008

10月31日キッズでは恒例になりましたハロウィーンに横田基地へ行きました。パイレーツ オブ カリビアン、プーさん、魔女、ハリウッド女優、ミニーちゃん等、子どもたちは思い思いの仮装で参加しました。

今年初参加の子どもたちは、住宅街に向かって歩いている間中「どこ？まだ？」を連発してワクワクしていました。最初の家でお菓子を頂くと、「わあ～、楽しい～！」、「急がなくても、まだ始まったばかりだから～！」と言う先生の声を後方に聞きながら、興奮気味で次の家へと走って行きました。

怖い造りの家の前では怖さのあまり泣き出し、反対に住人の方が仮装を取って怖くないよとお菓子を渡してくれて、泣きながらもらう場面もありました。

珍しく寒い夜で、途中でトイレを借りる事態もありましたが、どのお宅も「寒いですからね」と快く貸してくださり、甘いお菓子と一緒に暖かさも頂きました。

午後8時を過ぎても「もっと回りたい！」と言うほど子どもたちは元気で楽しみました。来年はどんな仮装をして行くのか楽しみです。

吉積 喜代子

特派員レポート㉒

吉田松陰のことばを学ぶ

二小で、道徳授業の一環として、子どもたちを学校・家庭・地域のみんなで育てようと地区公開講座が開催されました。この講座では、神山 義三先生が山口県萩市立明倫小学校での吉田松陰のことばを学ぶ事例についてお話されました。

松陰は1830年長門国（山口県）萩に生まれ、28歳で松下村塾を主宰し、多くの門徒を教える。しかし、幕府の政策を批判、捕らわれ江戸送りとなり、伝馬町の牢で処刑（数え30歳）。門徒の多くは明治維新の原動力となって日本の近代化を実現する。

明倫小学校では、松陰の残した多くの著作の中からその一節を学年ごと、学期ごとに変えて毎朝朗唱して6年間に18の言葉を学びます。私たちに聞き覚えのある、「親思う心にまさる親ごころきょうの音ずれ何ときくらん」は1年生の3学期に朗唱します。このあたりから、聞いている6年生はお話に魅了され、背筋がピンとしてきます。

朗唱の言葉は松陰が生涯を通じて語っていた、自ら学ぶ、心豊かな人、力強く生きる、という人間形成を目指す上に、魅力的な道徳の原点を見る思いがしました。また、児童と一緒にお聞きしたいと余韻の残る講演会でした。

石川 朝子